

外国人児童生徒等教育に携わる教師に「求められる具体的な力」

資質・能力	課題領域	求められる具体的な力	主な内容
捉える力	子どもの実態の把握	<p>〈文化間移動と発達の視点から、外国人児童生徒等の状況を把握することができる。〉</p> <p>ア 子どものシグナルを見逃さず、文化間移動と発達の視点をもってその困難さを理解することができる。</p> <p>イ 子どもの心理的状況を文化適応や家庭の状況に関連づけて理解することができる。</p> <p>ウ 子どものことばの力を、日本語と母語の両言語を視野に入れ、言語能力の多面性に留意して測定したり評価したりすることができる。</p> <p>エ 認知面の力と教科等の学力を、年齢的な発達や学習経験を考慮して捉えることができる。</p>	<p>A 外国人児童生徒等教育の課題</p> <p>D 文化適応</p> <p>E 母語・母文化・アイデンティティ</p> <p>F 言語と認知の発達</p> <p>I 日本語指導の計画と実施</p> <p>M 現場における実践</p>
	社会的背景の理解	<p>〈外国人児童生徒等の背景や将来を、社会的、歴史的な文脈に位置付けることができる。〉</p> <p>オ 外国人児童生徒等教育に関する施策や制度を、自ら情報を収集して理解することができる。</p> <p>カ 文化間移動や家族の状況を、グローバル化や歴史的な背景、社会制度の変化等に関連付けて理解することができる。</p> <p>キ 子どもの暮らしを、地域の多文化化や外国人住民支援の状況に関連付けて把握することができる。</p> <p>ク 子どもがどのような自己像を描き、どのように社会参加し自己実現ができるかを、社会の変化と共に展望することができる。</p>	<p>B 外国人児童生徒等教育の背景・現状・施策</p> <p>E 母語・母文化・アイデンティティ</p> <p>L 保護者・地域とのネットワーク</p> <p>K 社会参加とキャリア教育</p>
育む力	日本語・教科の力の育成	<p>〈外国人児童生徒等の実態等に応じ、言語教育に関する専門的知識に基づいて、日本語・教科の教育を行うことができる。〉</p> <p>ケ 外国人児童生徒等の受け入れ体制・指導体制に応じて、指導・支援を行うことができる。</p> <p>コ 第二言語習得や教育方法に関する知識を踏まえ、子どもの年齢的な発達の違いを考慮した日本語や教科の指導・支援をすることができる。</p> <p>サ 日本語に関する知識を生かして、子どもの日本語の力に合わせた日本語や教科の指導・支援をすることができる。</p> <p>シ 子どものニーズ、能力、学習経験に応じて個別の指導計画を作成し、日本語指導等を実施し、評価を行うことができる。</p> <p>ス 子どもの日本語の力を考慮して教材等を選んだり作成したりしてリソースを準備し、学習参加を促すことができる。</p> <p>セ 学校内外の生活・学習に結び付けて、日本語や教科の指導・支援、内容（教科等）と日本語を統合した指導・支援をすることができる。</p>	<p>C 学校の受け入れ体制</p> <p>F 言語と認知の発達</p> <p>G 日本語の特徴</p> <p>H 子どもの日本語教育の理論と方法</p> <p>I 日本語指導の計画と実施</p> <p>J 在籍学級での学習支援</p> <p>M 現場における実践</p>
	異文化間能力	<p>〈外国人児童生徒等と周囲の子どもとの相互作用を通して、双方に異文化間能力を育てることができる。〉</p> <p>ソ 子どもが新しい環境に適応することを支援できる。</p> <p>タ 子どもの母語、母文化、アイデンティティを尊重し、学級・学校・地域における社会参加を促すことができる。</p>	<p>D 文化適応</p> <p>E 母語・母文化・アイデンティティ</p> <p>I 日本語指導の計画と実施</p> <p>J 在籍学級での学</p>

の 涵 養	チ 子どもの文化間移動の経験や言語的文化的多様性を価値付け、周囲の 子どもの学びに結びつけることができる。 ツ 人権教育、持続可能な開発のための教育、市民性教育等と関連づけて、 外国人児童生徒等教育を行うことができる。	習支援 K社会参加とキャ リア教育
つ な ぐ 力	学校づくり 〈保護者や地域の関連者と連携・協力して、よりよい支援・教育のための学 校体制をつくること〉 テ 外国人児童生徒等教育を学校の教育課題に位置づけ、学校全体で取り 組むよう働きかけることができる。 ト コミュニケーションの仕方等を工夫して保護者との信頼関係を築き、 学校の教育活動への参加を促すことができる。 ナ 地域の支援活動団体等、学校外の様々な関係者と連携し、支援体制を構 築することができる。	A外国人児童生徒 等教育の課題 C学校の受け入れ 体制 L保護者・地域と のネットワーク
地 域 づ く り	地域づくり 〈異なる立場の人々と協働しながら、学習環境としての地域づくりをするこ とができる〉 ニ 学校が拠点となり、地域の様々な関係者と連携して、子どもの学習環境 を豊かにすることができる。 ヌ 子どもの学びが広がり連続性をもったものになるように、地域の他 校、あるいは保幼小中高の連携を進めることができる。 ネ 外国人児童生徒等教育に関する社会的関心を高めるために、自身の取 り組みを広く発信することができる。	A外国人児童生徒 等教育の課題 B外国人児童生徒 等教育の背景・ 現状・施策 L保護者・地域と のネットワーク N成長する教師
変 え る ／ 変 わ る 力	多文化共生社会の実現 〈社会的正義と公正性を意識し、多文化共生を具現化することができる〉 ノ 外国人児童生徒等のマイノリティの立場を理解し、公正性を意識した 教育・支援ができる。 ハ 外国人児童生徒等が地域にもたらす影響を多様性として肯定的に捉え られるように、マジョリティである受け入れ側に働きかけることができる。 ヒ 子どもが多様性を資源に活躍できる教育を実施し、多文化共生を促す ことができる。	A外国人児童生徒 等教育の課題 D文化適応 K社会参加とキャ リア教育
教 師 と し て の 成 長	教師としての成長 〈外国人児童生徒等に関する教育・支援活動を振り返り、自己の成長につ なげることができる〉 フ 外国人児童生徒等の教育を通して、自身のものの見方を批判的に問い 直すことができる。 ヘ 子どもの言語や文化に興味をもち、自身と異なる言語・文化に価値を 見いだすことができる。 ホ 実践の質の向上のために、教師集団で経験を共有したり相互に研修を 行ったりすることができる。 マ 外国人児童生徒等教育の経験を、自己の教師としての成長として意味 づけることができる。	A外国人児童生徒 等教育の課題 M現場における実 践 N成長する教師